

教科	理科	学科	普通科	学年	2	年	
科目	生物基礎			単位数	2	単位	
使用教科書	新編 生物基礎 (数研出版)			副教材	リードLightノート 生物基礎 (数研出版) 三訂版 フォトサイエンス生物図録(数研出版)		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力		論理的思考力	◎	傾聴力	○	課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力		コミュニケーション能力	○
	基礎的読解力		創造力		洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、様々な生物や生物現象についての理解するとともに、科学的に探求するために必要な基本的な技能を身に付ける。									
	・観察、実験など通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。									
	・様々な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとする態度を養う。									

★評価規準	A:十分満足できる	B:概ね満足できる(基準)	C:努力を要する
-------	-----------	---------------	----------

★単元ごとの評価規準	生物の特徴	★4月～5月までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。	資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見いだし表現することができる。細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。	生物の共通性を、実験や観察を通して見だし、理解しようとする。原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。
5	第1節 生物の多様性と共通性(続き)	・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解する。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解する。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解する。
6	第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 定期考査	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解する。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解する。

★単元ごとの評価規準	遺伝子とそのはたらき	★6月～9月までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
DNAが二重らせん構造であること、そのため、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。	DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。	DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート	★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート

自己評価	実際評価
観点	観点
① ② ③	① ② ③

7	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA	・DNAの構造や性質を、研究史を展開しながら理解する。 ・DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。
---	--------------------------------	---

8	第1節 遺伝情報とDNA(続き)	・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解する。 ・DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解する。
9	第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現 定期考査	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解する。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解する。 ・すべての遺伝子が細胞内でつねに発現しているわけではないことを理解する。

★单元ごとの評価規準 ヒトの体内環境の維持		★10月～3月下旬までの学習内容			自己評価		実際評価		
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度			観点		
体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。		体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。		外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。			観点		
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・課題学習や実験時のレポート		★何で評価するか ・授業でのワークシート ・実験時のレポート ・考査前後の振り返りシート			① ② ③		

10	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解する。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。
11	第1節 体内での情報伝達と調節(続き) 定期考査	・ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。 ・血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。
12	第2節 体内環境の維持のしくみ	・動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解する。
1	第2節 体内環境の維持のしくみ(続き)	・恒常性により、体内環境が保たれていることを理解する。
2	第2節 体内環境の維持のしくみ(続き) 定期考査	・体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解する。
3	第3節 免疫のはたらき	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。

★最終評価総括(自己評価/実際評価)

①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度	

自己評価総括			実際評価総括		
①	②	③	①	②	③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	▶備考